

令和 2 年度 ACTR

分類 番号	A18	取組 名称	精華町における森林ゾーニングと森林管理保全指針の作成 ～精華町森林管理保全指針に基づく森林資源量の把握とその利活用～
研究代表者所属・職名：		生命環境科学研究科・教授	氏名： 長島 啓子
研究担当者：[京都府立大学] 長島啓子，長澤淳一，武田征士，神代圭輔， [外部分担者・協力者] 精華町産業振興課：塚田寛氏，松本寛氏，上村邦雄氏， 京都先端科学大学：田中和博氏			
主な連携機関（所在市町村、機関（部署）名）			
京都府山城広域振興局、NPO 法人精華町ふるさと案内人の会、NPO 法人みんなの元気塾、 京都森林インストラクター会、けいはんな記念公園、せいか里山の会			
【研究活動の要約】			
<p>2019 年度から新たな森林経営管理制度として国の森林環境譲与税による助成措置が始まり、精華町においても新たな森林経営管理制度に対応する必要がある。本 ACTR 研究は、①精華町内の森林保全について具体的な指針を定めるため、森林ゾーニング案を作成すること、および、②個々のゾーンについて、具体的な森林管理保全指針を作成するとともに、町内に設定したモデル地区において資源量を把握した上で、森林管理保全指針の具体策の適否について、実証的に検討することを目的としている。</p> <p>本研究は 2 年計画で実施しており、2 年目の本年度は②に取り組む予定であった。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、現地調査を要する資源量把握、及びモデル地区における森林管理や木材利活用のあり方の具体的な検証が実施できない状況になった。このため、本年は 1) 昨年に引き続き里山自然度調査および生物多様性調査を行うとともに、2) 昨年提案したゾーニング案の精華町森林整備計画や第 5 次総合計画との関係、各ゾーンの現状と課題、望ましい森林の姿、モデル地区とその活動について整理を行った。そして、最終的な目標であった 3) の森林管理保全指針の策定を行った。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>1) 里山自然度調査および生物多様性調査 口谷湿地における調査の結果、冬期に 81 種、初夏に合計 129 種が確認された。確認された種には他の都道府県で絶滅が危惧されているものもあり、精華町の豊かな自然を確認することができた。また、けいはんな芽ぶきの森においても季節毎の植物を示した Stroly マップを完成させた（図 1）。</p> <p>2) ゾーニングにおける各ゾーンの整理 昨年提案したゾーニング案をもとに、連携機関等から構成される検討会の議論を通し、「里山減災ゾーン」「里山文化景観ゾーン」「里山水辺ゾーン」「里山再生ゾーン」の各ゾーンの定義、現状・課題、望ましい森林の姿の整理を行うとともに、現地見学を経てモデル地区を選定し、その活動についても取りまとめを行った（図 2）。</p> <p>3) 精華町森林管理保全指針の策定 2) までの内容について、「精華町森林管理保全指針検討委員会」を通して、町役場担当者や地域の関係者とともに議論をし、図 3 に示す「精華町森林管理保全指針」として取りまとめ、策定された。</p>			
【研究成果の還元】			
研究の成果は、精華町森林管理保全指針検討委員会（2020 年度：検討委員会 4 回と現地検討会 1 回）において町役場担当者や地域の関係者と共有・議論を行い、「森林管理保全指針」として策定され、精華町の HP に公表されている。開催予定の報告会は新型コロナウイルス感染予防の観点から中止した。			
【お問い合わせ先】 生命環境科学部 森林計画学研究室 教授 長島 啓子 Tel: 075-703-5635 E-mail: nagakei@kpu.ac.jp			

